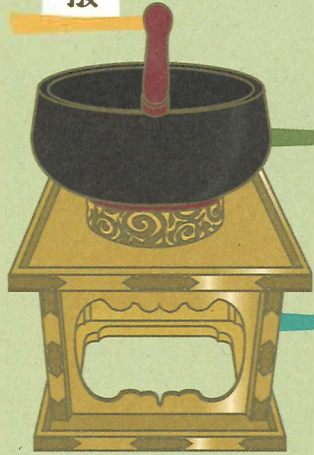


りん  
「鈴」

「鑿」<sup>さん</sup>とも「かね」<sup>さん</sup>ともいいます。お勤めをするときに使う仏具で、お勤めの初め・区切り・終わりのところで鳴らします。お勤め以外のときは鳴らしませんので、<sup>ぶっく</sup>仏供（お仏飯）<sup>ぶっばん</sup>を備えたときや、仏前に手を合わせるたびに鳴らすものではありません。

<sup>ばち</sup>撥 お勤め以外のとき、撥は鈴の中の手前におさめておきます。



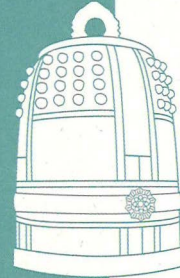
鈴

りんだい  
鈴台

朝夕の「正信偈」のお勤めは真宗門徒の生活の基本であり、とても大切なことです。鈴を鳴らすだけでなくぜひ、「正信偈」のお勤めをしてください。

イラストは実物と異なる部分がございます。

真宗大谷派  
名古屋別院



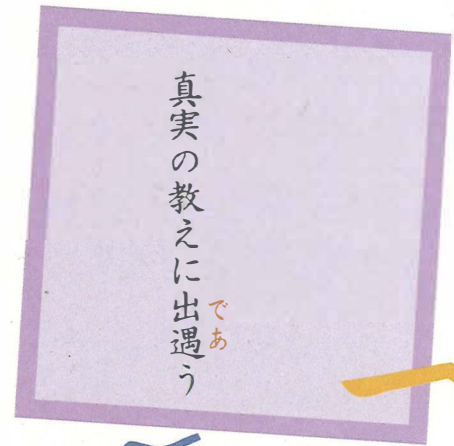
<http://www.ohigashi.net/>

〒460-0016  
名古屋市中区橋2-8-55  
☎052(321)9201  
☎052(321)3184

このリーフレットは、環境に配慮したインク、用紙を使用し作成しました。

07.12.  
10,000

<sup>ほか</sup>  
「お墓」は  
何のために  
あるのですか？



4



# 「お墓」は

何のためにあるのですか？

田代俊孝

親鸞聖人は、「私が亡くなったら、遺体<sup>かもがわ</sup>を賀茂川の魚にあたえてください。葬儀を一大事と考えないで仏法の信心を根本としてください。」とおっしゃったと、ひ孫<sup>かくによ</sup>の覚如上人が伝えています。浄土真宗では、立派な葬儀、立派なお墓よりも信心をいただくことがより大事なことでと考えます。

ですから、親鸞聖人が亡くなった後も、一応<sup>ごびょう</sup>、御廟(お墓のお堂)ができますが、やがて、それは信心をいただく<sup>もんぼう</sup>、聞法の道場となっていくきます。だから、聞法の根本道場たる本山を「真宗本廟<sup>しんしゅうほんびょう</sup>」と申します。

皆さんのご家庭では、お内仏のほか、お墓をもたれますが、それは、先祖の霊をしずめるためとか、

たたりの及ばぬようにするというものではなく、亡きご先祖<sup>しよぶつ</sup>を諸仏と仰いで、報恩感謝するためのものがあります。もっといえば、信心のご縁をいただくためのものです。

親鸞聖人のお弟子<sup>しんぶつ</sup>の真仏上人<sup>ほんぶつじょうじん</sup>が亡くなった後、お弟子たちが報恩塔<sup>ほうおんとう</sup>をたてられました。今もそれが、埼玉県に残っています。石の板碑<sup>いたび</sup>で正面に大きく「南無阿弥陀仏」と書いてあります。それが真宗のお墓

お墓の前に座り、  
ふんと思つこと…。



の原型と考えられます。ですから、浄土真宗では、本来、お墓の正面には「何々家之墓」とか、「先祖代々之墓」とは書かず「南無阿弥陀仏」と書くのです。決して、その造作や方角でたたりがあるなどとは申しません。そのように考えるのは、ご先祖が迷っているのではなく、信心をいただいていないあなたの心が迷っているからでしょう。

折々に、お墓の前に立って、亡き人<sup>しんじんぎやくとく</sup>を偲んで信心獲得の仏縁をいただき、報恩感謝するのです。すると、あなたの“いのち”が連綿とつながる“いのち”であることを実感するでしょう。また、静かに耳をそばだてると亡き父母の尊い願いが聞こえてくることでしょう。

(たしろしゅんこう 同朋大学大学院教授)